

平成 16年 3月期 決算短信(連結)

平成16年5月14日



上 場 会 社 名 住友林業株式会社

上場取引所 東 大

コード番号 1911

本社所在都道府県

(URL http://www.sfc.co.jp)

大阪府

代 表 者 役職名 取締役社長 氏名 矢野 龍

問合せ先責任者役職名 経理部長 氏名 佐々木 實

TEL (03) 5322 - 6662

決算取締役会開催日 平成16年5月14日

米国会計基準採用の有無 無

1. 16年 3月期の連結業績(平成 15年 4月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

(1)連結経営成績 (百万円未満切捨)

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16年 3月期	673,778	4.4	17,576	100.4	17,073	75.6
15年 3月期	645,100	0.1	8,772	188.6	9,721	160.5

	当期純利益		1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	株主資本 当期純利益率	総資本 経常利益率	売上高 経常利益率
	百万円	%	円 銭	円 銭	%	%	%
16年 3月期	9,869	-	55 81	-	7.2	4.7	2.5
15年 3月期	15,439	-	87 53	-	11.1	2.7	1.5

(注) 持分法投資損益 16年 3月期 163百万円 15年 3月期 70百万円  
 期中平均株式数(連結) 16年3月期 176,123,714 株 15年3月期 176,385,693 株  
 会計処理の方法の変更 無  
 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前期増減率

(2)連結財政状態

	総 資 産	株 主 資 本	株主資本 比率	1株当たり 株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
16年 3月期	369,754	146,268	39.6	830 50
15年 3月期	357,322	129,727	36.3	736 42

(注) 期末発行済株式数(連結) 16年3月期 176,073,798 株 15年3月期 176,161,040 株

(3)連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
16年 3月期	25,962	7,646	735	69,312
15年 3月期	19,734	2,026	8,171	52,029

(4)連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 55社 持分法適用非連結子会社数 - 社 持分法適用関連会社数 3社

(5)連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結(新規) 6社 (除外) 1社 持分法(新規) - 社 (除外) - 社

2. 17年 3月期の連結業績予想(平成 16年 4月 1日 ~ 平成 17年 3月 31日)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円
中間期	330,000	4,000	1,500
通 期	714,000	20,000	11,000

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 62円 47銭

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。今後様々な要因によって、実際の業績は見通しと異なる結果となる場合があることをご承知お願います。

【連結】

1. 比較損益計算書

(単位：百万円)

		2003/3期	2004/3期	前年同期差	増減率	2005/3期 予想	前年同期差	増減率
売上高	木材・建材事業	283,517	293,220	9,702	+ 3.4%	306,000	12,779	+ 4.4%
	住宅及び住宅関連事業	370,421	393,616	23,194	+ 6.3%	433,000	39,383	+ 10.0%
	その他	17,882	12,350	5,532	30.9%	12,000	350	2.8%
	消去又は全社	26,721	25,407	1,313	-	37,000	11,592	-
売上高		645,100	673,778	28,678	+ 4.4%	714,000	40,221	+ 6.0%
売上総利益		109,631	120,777	11,145	+ 10.2%	127,000	6,222	+ 5.2%
販売費及び一般管理費		100,858	103,201	2,342	+ 2.3%	107,000	3,798	+ 3.7%
営業利益		8,772	17,576	8,803	+ 100.4%	20,000	2,423	+ 13.8%
営業外収益		2,392	2,392	0	+ 0.0%	2,000	392	16.4%
営業外費用		1,444	2,895	1,451	+ 100.5%	2,000	895	30.9%
営業外損益		948	502	1,451	-	-	502	-
経常利益		9,721	17,073	7,352	+ 75.6%	20,000	2,926	+ 17.1%
特別利益		7,157	13,920	6,762	+ 94.5%	-	13,920	-
特別損失		38,776	5,931	32,845	84.7%	500	5,431	91.6%
特別損益		31,618	7,989	39,607	-	500	8,489	-
当期純利益		15,439	9,869	25,309	-	11,000	1,130	+ 11.4%

2. 住宅事業の概況

(単位：百万円)

<受注>

		2003/3期	2004/3期	前年同期差	増減率	2005/3期 予想	前年同期差	増減率		
戸建注文住宅 計	住友林業	棟数	9,902	9,908	6	+ 0.1%	10,100	192	+ 1.9%	
		金額	285,443	292,293	6,849	+ 2.4%	294,000	1,706	+ 0.6%	
	住友林業ツ-ハイフ-	棟数	418	312	106	25.4%	440	128	+ 41.0%	
		金額	10,427	9,106	1,320	12.7%	12,900	3,793	+ 41.7%	
	住友林業システム住宅	棟数	218	309	91	+ 41.7%	320	11	+ 3.6%	
		金額	5,530	7,357	1,826	+ 33.0%	8,100	742	+ 10.1%	
戸建注文住宅 計		棟数	10,538	10,529	9	0.1%	10,860	331	+ 3.1%	
		金額	301,402	308,758	7,355	+ 2.4%	315,000	6,241	+ 2.0%	
集合住宅 計	R C造 マンション	戸数	759	1,177	418	+ 55.1%	1,080	97	8.2%	
		金額	8,215	13,590	5,374	+ 65.4%	10,960	2,630	19.4%	
	ツ-ハイフ-アパート	戸数	468	478	10	+ 2.1%	670	192	+ 40.2%	
		金額	3,981	3,592	388	9.8%	7,040	3,447	+ 96.0%	
	集合住宅 計		戸数	1,227	1,655	428	+ 34.9%	1,750	95	+ 5.7%
			金額	12,196	17,182	4,986	+ 40.9%	18,000	817	+ 4.8%

解約引後の受注棟数を記載。

<販売>

(単位：百万円)

		2003/3期	2004/3期	前年同期差	増減率	2005/3期 予想	前年同期差	増減率		
戸建住宅 計	住友林業	棟数	9,824	9,817	7	0.1%	9,900	83	+ 0.8%	
		金額	283,798	285,512	1,714	+ 0.6%	291,000	5,487	+ 1.9%	
	住友林業ツ-ハイフ-	棟数	446	394	52	11.7%	375	19	4.8%	
		金額	10,905	10,296	609	5.6%	10,900	603	+ 5.9%	
	住友林業システム住宅	棟数	223	285	62	+ 27.8%	320	35	+ 12.3%	
		金額	5,538	6,970	1,431	+ 25.8%	8,000	1,029	+ 14.8%	
戸建住宅 計		棟数	10,493	10,496	3	+ 0.0%	10,595	99	+ 0.9%	
		金額	300,242	302,779	2,536	+ 0.8%	309,900	7,120	+ 2.4%	
分譲住宅 国内のみ		棟数	59	46	13	22.0%	60	14	+ 30.4%	
		金額	1,119	973	146	13.1%	1,200	226	+ 23.3%	
戸建住宅 計		棟数	10,552	10,542	10	0.1%	10,655	113	+ 1.1%	
		金額	301,362	303,752	2,390	+ 0.8%	311,100	7,347	+ 2.4%	
集合住宅 計	R C造 マンション	戸数	720	856	136	+ 18.9%	1,020	164	+ 19.2%	
		金額	7,415	11,086	3,670	+ 49.5%	11,400	313	+ 2.8%	
	ツ-ハイフ-アパート	戸数	500	410	90	18.0%	580	170	+ 41.5%	
		金額	4,129	3,345	784	19.0%	5,400	2,054	+ 61.4%	
	集合住宅 計		戸数	1,220	1,266	46	+ 3.8%	1,600	334	+ 26.4%
			金額	11,545	14,432	2,886	+ 25.0%	16,800	2,367	+ 16.4%

## 【個別】

## 1. 比較損益計算書

(単位：百万円)

		2003/3期	2004/3期	前年同期差	増減率	2005/3期 予想	前年同期差	増減率
木材	木材	83,880	82,897	982	1.2%	85,000	2,102	+ 2.5%
	建材	169,163	174,700	5,536	+ 3.3%	185,000	10,299	+ 5.9%
木材・建材部門		253,043	257,597	4,554	+ 1.8%	270,000	12,402	+ 4.8%
戸建住宅	戸建住宅	298,774	298,105	669	0.2%	305,000	6,894	+ 2.3%
	集合住宅	11,547	14,471	2,924	+ 25.3%	17,000	2,528	+ 17.5%
住宅部門		310,322	312,577	2,255	+ 0.7%	322,000	9,422	+ 3.0%
その他		1,121	1,100	21	1.9%	1,000	100	9.1%
売上高		564,487	571,275	6,787	+ 1.2%	593,000	21,724	+ 3.8%
利益率		3.8%	3.9%	0.1%		3.8%	0.1%	
木材・建材部門		9,731	10,092	360	+ 3.7%	10,200	107	+ 1.1%
住宅部門		73,063	78,687	5,624	+ 7.7%	81,000	2,312	+ 2.9%
その他		711	909	197	+ 27.8%	800	109	12.1%
売上総利益		83,507	89,690	6,183	+ 7.4%	92,000	2,309	+ 2.6%
利益率		14.8%	15.7%	0.9%		15.5%	0.2%	
人件費		39,243	41,108	1,864	+ 4.8%	40,500	608	1.5%
広告宣伝費		5,202	5,028	173	3.3%	5,400	371	+ 7.4%
その他販管費		31,972	28,918	3,053	9.6%	31,100	2,181	+ 7.5%
販売費及び一般管理費		76,417	75,055	1,362	1.8%	77,000	1,944	+ 2.6%
利益率		1.3%	2.6%	1.3%		2.5%	0.0%	
営業利益		7,089	14,634	7,545	+ 106.4%	15,000	365	+ 2.5%
営業外収益		2,659	2,320	338	12.7%	2,200	120	5.2%
営業外費用		886	1,593	707	+ 79.8%	700	893	56.1%
営業外損益		1,772	726	1,046	59.0%	1,500	773	+ 106.3%
利益率		1.6%	2.7%	1.1%		2.8%	0.1%	
経常利益		8,862	15,361	6,499	+ 73.3%	16,500	1,138	+ 7.4%
特別利益		12,780	13,062	282	+ 2.2%	-	13,062	-
特別損失		47,558	7,269	40,289	84.7%	500	6,769	93.1%
特別損益		34,778	5,793	40,571	-	500	6,293	-
利益率		2.9%	1.4%	4.3%		1.6%	0.2%	
当期純利益		16,315	7,811	24,127	-	9,500	1,688	+ 21.6%

## 2. 戸建注文住宅事業の概況

		2003/3期	2004/3期	前年同期差	増減率	2005/3期 予想	前年同期差	増減率
受注	棟数	9,902	9,908	6	+ 0.1%	10,100	192	+ 1.9%
	金額(百万円)	285,443	292,293	6,849	+ 2.4%	294,000	1,706	+ 0.6%
	1棟あたり単価(百万円)	28.8	29.5	0.7	+ 2.3%	29.1	0.4	1.3%
	平均坪数	44.3	43.5	0.8	1.8%	-	-	-
	坪単価(千円)	651	678	27	+ 4.2%	-	-	-
完工	棟数	9,824	9,817	7	0.1%	9,900	83	+ 0.8%
	金額(百万円)	283,798	285,512	1,714	+ 0.6%	291,000	5,487	+ 1.9%
	1棟あたり単価(百万円)	28.9	29.1	0.2	+ 0.7%	29.4	0.3	+ 1.1%
	平均坪数	45.0	44.3	0.7	1.5%	-	-	-
	坪単価(千円)	642	656	13	+ 2.2%	-	-	-
期末受注残	棟数	8,886	8,977	91	+ 1.0%	9,177	200	+ 2.2%
	金額(百万円)	256,319	263,100	6,781	+ 2.6%	266,101	3,000	+ 1.1%
営業社員数(人)		1,473	1,483	10	+ 0.7%	1,517	34	+ 2.3%
営業拠点数		98カ所	94カ所	4カ所	4.1%	96カ所	2カ所	+ 2.1%
展示場数		305カ所	308カ所	3カ所	+ 1.0%	315カ所	7カ所	+ 2.3%

解約引後の受注棟数を記載。

## 主要関係会社の状況

会社名 (所在地)	設立時期	出資比率 1	決算 期	P / L				B / S		
				売上高	営業利益	経常利益	当期利益	資本金	総資産	株主資本
住友林業システム住宅(株) (群馬県館林市)	H8.5	100	H15/3	8,101	1,375	1,398	1,475	800	3,493	344
			H16/3	7,450	684	707	2,463	800	1,898	2,118
			H17/3(予想)	8,500	0	0	0	-	-	-
			百万円							
住友林業ツバーイフォー(株) (東京都中央区)	S47.10	100	H15/3	11,297	0	24	14	100	3,226	212
			H16/3	10,687	18	4	48	100	3,006	163
			H17/3(予想)	11,200	0	0	0	-	-	-
			百万円							
住友林業クエスト(株) (東京都新宿区)	H13.4	100	H15/3	26,536	112	207	995	800	17,631	2,217
			H16/3	28,224	895	838	224	800	15,943	2,257
			H17/3(予想)	29,800	700	600	400	-	-	-
			百万円							
住友林業ホームサービス(株) (東京都渋谷区)	S39.9	100	H15/3	5,546	4	1	42	400	19,911	176
			H16/3	6,105	267	258	121	400	13,733	297
			H17/3(予想)	6,600	200	200	100	-	-	-
			百万円							
住友林業緑化(株) (東京都中野区)	S52.4	100	H15/3	25,862	189	253	186	200	9,476	2,285
			H16/3	25,085	292	310	404	200	8,610	2,693
			H17/3(予想)	25,900	400	400	200	-	-	-
			百万円							
住友林業ホームテック(株) (東京都千代田区)	S63.10	100	H15/3	17,175	541	554	316	100	5,154	1,306
			H16/3	20,994	783	794	449	100	7,070	1,641
			H17/3(予想)	28,000	1,000	1,000	600	-	-	-
			百万円							
(株)サン・ステップ (東京都新宿区)	S60.3	63	H14/12	-	-	-	-	-	-	-
			H15/12	11,121	68	87	40	150	6,790	702
			H17/3(予想)	30,100	600	600	300	-	-	-
			百万円							
P.T.Kutai Timber Indonesia ( Jakarta,Indonesia )	S45.9	99	H14/12	40,261	745	887	658	5,000	28,948	7,319
			H15/12	48,796	843	201	154	5,000	31,311	7,117
			H16/12(予想)	55,360	2,760	2,280	1,600	-	-	-
			千US\$ ( PL円換算レート H14/12=125.2、H15/12=115.9、H16/12=110.0 )							
Alpine MDF Industries Pty Ltd. (Wangaratta,Victoria,Australia )	H6.5	( 100 )	H14/12	-	-	-	-	-	-	-
			H15/12	47,983	1,691	1,213	8,467	62,174	80,623	33,589
			H16/12(予想)	51,530	3,260	760	760	-	-	-
			千AU\$ ( PL円換算レート H14/12=67.3、H15/12=75.5、H16/12=77.0 )							
Nelson Pine Industries Ltd. ( Richmond,Nelson,New Zealand)	S61.10	( 100 )	H14/12	168,657	16,446	13,322	8,110	18,000	268,025	112,420
			H15/12	145,420	2,274	4,314	3,944	18,000	251,259	108,476
			H16/12(予想)	154,290	10,700	3,990	2,670	-	-	-
			千NZ\$ ( PL円換算レート H14/12=58.1、H15/12=67.4、H16/12=66.0 )							

1 ( ) 数字は、間接出資割合。

2 住友林業ツバーイフォー(株)は、平成15年4月1日付で、スミツツバーイフォー(株)が商号を変更したものの。

3 (株)サン・ステップは、平成15年8月1日に株式を取得。平成15年12月期下半期実績から連結対象。

決算期を3月に変更する予定としているため、平成17年3月期は平成16年1月～平成17年3月までの15ヶ月間の予想数値としている。

4 Alpine MDF Industries Pty Ltd.は、平成14年12月30日に株式を取得。平成15年12月期から連結対象。

## 企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社 55社及び関連会社 3社で構成され、山林事業を根幹として、木材・建材・資材の仕入・製造・加工・販売、並びに注文住宅等の建築請負・設計・施工・監理、及びそれらに関連する事業活動を行っております。

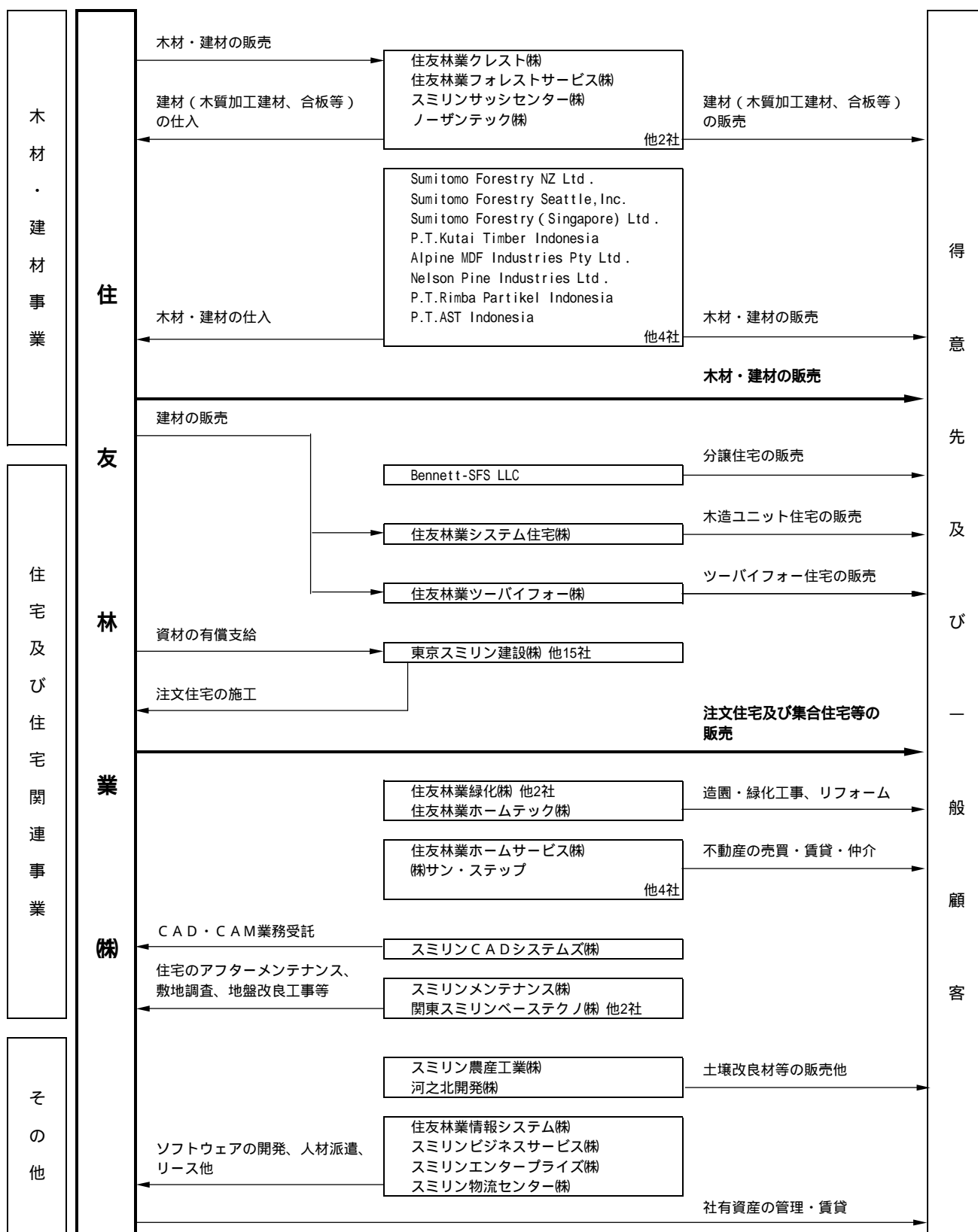
事業内容と当社グループの当該事業における位置付けは次のとおりであります。

なお、次の3部門は事業の種類別セグメント情報の区分と同一であります。

木材・ 建材事業	事業内容	スギ・ヒノキ・トドマツ等の植林・育成・収穫、山林管理業務、木材（一般用材・チップ・パルプ材・プレカット材・集成材等）・建材（木質加工建材・窯業建材・金属建材・住宅機器・合板・繊維板等）の国内及び海外における仕入・製造・加工・販売
	主な 関係会社	住友林業クレスト(株)、住友林業フォレストサービス(株)、スミリンサッシセンター(株)、ノーザンテック(株)、Sumitomo Forestry NZ Ltd.、Sumitomo Forestry Seattle, Inc.、Sumitomo Forestry (Singapore) Ltd.、P.T.Kutai Timber Indonesia、Alpine MDF Industries Pty Ltd.、Nelson Pine Industries Ltd.、P.T.Rimba Partikel Indonesia、P.T.AST Indonesia
住宅及び 住宅関連 事業	事業内容	木造軸組住宅・ツーバイフォー住宅・集合住宅等の建築請負・設計・施工・監理、木造ユニット住宅の製造・施工・販売、分譲住宅の施工・販売、造園・緑化工事の請負・設計・施工・監理、一般住宅・マンションのリフォーム、CAD・CAM業務受託、住宅のアフターメンテナンス、敷地調査、地盤改良工事、インテリア商品の販売、不動産の売買・賃貸・仲介
	主な 関係会社	住友林業システム住宅(株)、住友林業ツーバイフォー(株)、住友林業ホームサービス(株)、住友林業緑化(株)、住友林業ホームテック(株)、スミリンCADシステムズ(株)、スミリンメンテナンス(株)、東京スミリン建設(株)、関東スミリンベーステクノ(株)、(株)サン・ステップ、Bennett-SFS LLC
そ の 他	事業内容	社有資産の管理・賃貸、ソフトウェアの開発・販売、土壌改良材・園芸用品の製造・販売、人材派遣、リース業、倉庫業、ゴルフ場の経営
	主な 関係会社	住友林業情報システム(株)、スミリン農産工業(株)、スミリンビジネスサービス(株)、スミリンエンタープライズ(株)、スミリン物流センター(株)、河之北開発(株)

【事業系統図】

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



連結子会社  
持分法適用関連会社

【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合	関係内容				
					役員の兼任等	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借	業務提携
(連結子会社)		百万円		%					
住友林業システム住宅(株)	群馬県館林市	800	住宅及び住宅関連	100.0	有	有	建材の販売	土地・建物の賃貸	-
住友林業ツーバイフォー(株)	東京都中央区	100	住宅及び住宅関連	100.0	有	無	建材の販売	建物の賃貸	-
住友林業クレスト(株)	東京都新宿区	800	木材・建材	100.0	有	有	繊維板・原木の販売、建材・合板の購入	土地の賃貸	-
住友林業ホームサービス(株)	東京都渋谷区	400	住宅及び住宅関連	100.0	有	有	—————	—————	-
住友林業緑化(株)	東京都中野区	200	住宅及び住宅関連	100.0	有	無	外構工事の発注、外構部材の販売	建物の賃貸	-
住友林業ホームテック(株)	東京都千代田区	100	住宅及び住宅関連	100.0	有	無	—————	建物の賃貸	-
株サン・ステップ	東京都新宿区	150	住宅及び住宅関連	63.1	有	有	—————	—————	-
P.T.Kutai Timber Indonesia	Jakarta, Indonesia	千US\$ 5,000	木材・建材	99.0	有	無	合板の輸入	—————	-
Alpine MDF Industries Pty Ltd.	Wangaratta, Victoria, Australia	千AU\$ 62,174	木材・建材	100.0 (100.0)	有	無	—————	—————	-
Nelson Pine Industries Ltd.	Richmond, Nelson, New Zealand	千NZ\$ 38,000	木材・建材	100.0 (100.0)	有	無	中質繊維板の輸入	—————	-
その他 45社									
(持分法適用関連会社)									
P.T.Rimba Partikel Indonesia	Jawa Tengah, Indonesia	千US\$ 16,800	木材・建材	50.0	有	無	—————	—————	-
その他 2社									

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載しております。  
2. 議決権の所有割合欄の( )数字は、間接所有割合であります。  
3. 住友林業ツーバイフォー(株)は、平成15年4月1日付で、スミリンツーバイフォー(株)が商号を変更したものであります。

# 経営方針

## 1. 経営の基本方針

当社グループは、「再生可能で人と地球にやさしい自然素材である『木』を活かし、『住生活』に関するあらゆるサービスを通じて、豊かな社会の実現に貢献する」ことを経営理念に掲げ、この理念のもと、株主価値の最大化を目指すことを経営の基本方針としております。

この実現のため、当社グループは、公正、信用を重視し、積極かつ堅実な経営を行うことを旨とする「住友精神」の遵守、一人一人が高い士気と誇りを持ち、自由闊達な企業風土をつくる「人間尊重」、事業を通じ、自然環境、生活環境に貢献する「環境保全」、お客様満足を最優先に行動する「お客様最優先」の4つを行動指針として、経営の効率化、収益性の向上を重視した事業展開を行っております。

また、情報開示を積極化し経営の透明性を高めることで、経営品質の向上を図っております。

## 2. 利益配分に関する基本方針

利益配分に関しましては、株主への利益還元を最重要課題と認識し、これを安定的、継続的に実施することを基本方針としております。今後におきましても、当面、株主資本当期純利益率の向上に注力するとともに、経営基盤、財務体質の強化等を勘案しつつ、利益の状況に応じた適正な水準での利益還元の維持・向上を図ってまいります。

また、内部留保金につきましては、長期的な視野に立った山林経営や海外プロジェクト、IT（情報技術）等への効果的な投資、住宅販売網の整備や新規事業の推進並びに商品開発等の研究開発活動に有効に活用していく所存であります。

## 3. 投資単位の引き下げに関する考え方及び方針

当社と致しましては、投資家層の拡大、株式の流動性向上を資本政策上の重要課題と認識し、投資単位の引き下げはそのための有用な手段の一つと考えておりますが、その実施につきましては、費用及び効果を鑑みた上で、株式市場の趨勢、当社株式の株価や出来高推移を見守りながら慎重に対処したいと考えております。

## 4. 中長期的な経営戦略と対処すべき課題

当社グループは、「木」を活用した総合住関連事業を営む企業グループを目指し、中核事業である「新築住宅事業」と「木材建材流通事業」に加え、住宅リフォーム事業、不動産流通事業等の「住宅ストック事業」、海外での木質建材の製造・販売を中心とする「海外事業」、及びアパート・マンション等の建築請負、賃貸管理事業等の「集合住宅事業」を早期に収益の柱に育成することを、中長期的な目標に掲げており、今後もその達成に向けた経営戦略を着実に展開してまいります。

また、グループ全体で「収益第一主義」の徹底を当面の最優先課題と位置付け、生産コストダウンや経費圧縮を推進し、経営の効率化と収益力の強化を図ってまいります。

住宅事業におきましては、「お客様の住生活を守る」という、当社住宅事業開始以来の社会的使命を果たすため、お客様最優先の徹底、地域密着営業の推進、商品開発の強化、社員教育の充実、IT活用による住宅建築の生産改革などの諸施策を実施してまいります。また、リフォームや不動産流通などの住宅ス



トックビジネスを拡大し、グループ全体として住関連サービスを総合的に提供できる体制確立のための事業展開を図ります。

木材・建材事業におきましては、国内市場における業界トップの実力、収益力の確立を目指すとともに、海外での木材・建材商品の生産体制の増強、海外マーケットの開拓を推進してまいります。

当社グループは、創業以来300余年にわたり森と木を育て自然と共生してきた企業グループとして、環境と調和のとれた事業活動を重視し、環境経営を組織的かつ計画的に進めるべく、当社の国内全事業所においてISO14001の認証を取得しております。今後は海外子会社も含め、順次グループ企業各社へ拡大していく予定です。

また、国内の山林事業やインドネシアにおけるグループ会社による植林活動等、森と木に関する豊富な経験を活かし、今後は海外での植林事業や植林コンサルタント事業等、当社グループが培ってきたノウハウを活かした環境事業の推進にも力を入れていく所存であります。

## 5. コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及びその施策の実施状況

コーポレート・ガバナンスの充実および強化につきましては、経営の透明性確保、迅速な意思決定・業務執行の観点から、経営の最重要課題の一つと位置付けております。

平成14年6月より執行役員制度を導入し、「意思決定・監督機能」と「業務執行機能」を分離することで、スピードを重視した経営を行うと同時に、業務執行に関する監督機能の強化、業務執行責任の明確化を図っております。また、併せて経営会議体の改革も行い、意思決定の迅速性と機動性の向上を図ってまいりました。

取締役会は原則月1回開催し、重要事項に関する意思決定と業績等の進捗確認を行うとともに、業務執行の監督機能を果たしております。また、戦略の方向付けを審議する経営会議を、原則月1回開催する他、全執行役員(17名)が出席し、各執行役員が執行役員社長に対し業務進捗状況に関する報告等を行う執行役員会も、原則月1回開催しております。

当社は監査役制度を採用しており、監査役5名中2名が社外監査役となっております。監査役は、会社の健全で持続的な経営に資するため、取締役会ならびに経営会議に出席する他、毎月1回代表取締役と監査結果について意見交換するための会議を開催しております。

これらの会議等により、経営への監督機能を備えつつ、経営環境の変化に迅速に対応できる体制の維持、構築に努めております。

また、当社はコンプライアンスを最重要課題として捉え、平成9年9月に「住友林業倫理憲章」を制定し、以来、全社員に向けて社内報誌上等で継続的にコンプライアンスの必要性を訴えるなど、透明性の高い企業風土作りに取り組んでおります。平成14年12月には、総務部長と顧問弁護士を窓口とするコンプライアンス・カウンターを設置し、違法行為や企業倫理に反する不当行為について、全グループ従業員からプライバシーを守りながら情報提供を受ける仕組みを設けています。リスク管理面では、総務部長を委員長とし、グループ全体を対象とした「リスク管理委員会」を設置している他、緊急事態発生時に、迅速且つ確実な対応を行えるよう全グループ社員を対象に「緊急ホットライン」専用回線を設け、休日や夜間でも確実にリスク管理委員会に情報が届く体制を作るなど、リスク管理機能の強化充実にも努めております。

内部統制面におきましては、業務監理室がグループ全社を対象に、日常業務の適正性に関する内部監査を実施する他、各組織がコンプライアンスやリスク管理の強化に自律的に取り組んでおります。

## 経営成績及び財政状態

### 1. 経営成績

#### (1) 当期の概況

当期のわが国経済は、長引くデフレにより低迷を続けながらも、好調な輸出や民間設備投資の回復により、一部に明るい兆しが見受けられましたが、依然雇用や個人消費については改善への展望が開けないなど、本格的な景気回復を実感するには至りませんでした。

住宅産業におきましては、平成15年12月末の適用期限を睨んだ住宅ローン減税への駆け込み需要などのプラス要素もあり、市況回復に向けた動きも見られましたが、個人消費の回復の遅れが影響し、住宅に対する購買意欲は、全体的には盛り上がりには欠けました。その結果、通年の新設住宅着工戸数は117万3千戸（前期比2.5%増）、また当社グループ事業が大きく関連する持家の着工戸数についても37万3千戸（前期比2.1%増）にとどまりました。一方、木材・建材業界におきましては、国内市場では、平成15年7月のシックハウス対策を内容とする改正建築基準法施行まで、買い控えによる荷動きの停滞から市況は低迷しましたが、その後は急速に回復しました。世界的な原材料高や海上輸送運賃の高騰など輸入材に関する不安材料もありましたが、増改築市場の拡大が建材需要をもたらすなど、比較的堅調に推移しました。

経済は緩やかに持ち直しの兆しを見せ始めていますが、未だバブル崩壊以降の長い不況からの脱出を確信できる状況にはなく、経済状況に左右されにくい強固な収益体質作りを間断なく行う必要があるとの認識の下、当社グループは、前期に引き続き財務体質の健全化策を実施しました。具体的には、厚生年金基金に係る代行部分を国に返上して、確定給付企業年金（基金型）へ移行するにあたり、退職金や年金受給額が市場金利に連動するキャッシュバランスプランを導入することで退職給付債務を減らし、将来的にも金利変動の影響を受けにくい制度としました。これにより94億40百万円の特別利益を計上しました。同時に、固定資産に係る減損会計の早期適用を実施し、ゴルフ場等を中心に減損処理を行い55億31百万円の特別損失を計上しました。

これらに年金資産の運用益等を加えた結果、特別損益全体では、特別利益は139億20百万円、特別損失は59億31百万円、差引きで79億89百万円の利益を計上しました。

上記のような事業環境におきまして、更なる収益力の強化を目指した諸施策を実施しました結果、売上高は6,737億78百万円（前期比4.4%増）、経常利益は170億73百万円（前期比75.6%増）、当期純利益は前期比253億9百万円上回り98億69百万円となりました。

#### 事業の種類別セグメントの状況

##### < 木材・建材事業 >

##### ・ 木材・建材流通事業

木材・建材の流通事業におきましては、新設住宅着工戸数が伸び悩みを見せる一方、増改築需要が堅調に推移するという状況の中、業界のリーディングカンパニーとして更なる基盤強化を図るため、引き

続き競争力と収益力の向上に努めました。実需に基づく仕入により、極力在庫を持たないことでリスクを低減するとともに、新たに「審査部」を設置し、与信面での管理を強化しました。また、業界再編の動きが続き、商流が大きく変化しつつある建材流通分野においては、従来から行っている地域密着営業と併せて、資本参加を含めた他企業との提携強化を積極化することで、常に業界をリードしていけるよう磐石な体制作りにも努めました。

地場工務店の経営活性化を目指すイノス事業は、会員制度の大幅見直し後の初年度ということもあり、上棟棟数は昨年度を下回りましたが、利益率の向上と経費削減に努めた結果、利益面で改善しました。

#### ・建材製造事業

国内において建材製造を行う住友林業クレスト(株)では、住宅ローン減税適用への駆け込み需要による新設住宅着工戸数増加の効果に加え、徹底した生産コストダウン及び経費削減に努めた結果、売上高、利益ともに大幅な増加となりました。また、技術開発にも注力して商品開発力を高める一方、デリバリー機能を強化するなど競争力を高め、新規顧客獲得にも努めました。

海外におきましては、主力事業でありますオセアニアにおける中質繊維板(MDF)製造・販売事業では、ニュージーランドのネルソン・パイン・インダストリーズ(NPIL)社、及び前期からグループに加わったオーストラリアのアルパイン・MDF・インダストリーズ社による計4ライン体制でMDF供給に臨みましたが、主たる販売先である日本やSARSの余波を受けたアジア地域の市況悪化、ニュージーランド及びオーストラリアの通貨高による為替の影響等により収益は伸び悩みました。また、インドネシアで合板や木質建材を製造・販売しているクタイ・ティンバー・インドネシア(KTI)社においても、現地通貨高による原材料コスト負担の増加や合板価格の単価の伸び悩み等から、厳しい結果に終わりました。一方、インドネシアでパーティクルボードを生産しているリンパ・パーティクル・インドネシア(RPI)社では、インドネシア国内の旺盛な需要と生産コストの低減努力により、利益が大幅に増加しました。

以上の結果、木材・建材事業では、売上高は2,770億33百万円(前期比4.1%増)、営業利益は38億12百万円(前期比70.3%増)となりました。

#### <住宅及び住宅関連事業>

##### ・木造軸組戸建住宅

木造軸組工法による住宅新築事業におきましては、時代の変化に即応できる体制を目指した組織改正、収益体質の一層の強化を目指したコストダウン、及び「お客様最優先」を実践する施策の充実に努めました。

組織改正では、日本全国を3エリアに分けた従来の3事業部制から、戦略機能を本部に集中し、営業店部である支店との役割を明確に分けたフラット制へと移行しました。この改正により、本部と現場の距離を縮め、現場の状況に対して本部が迅速且つ柔軟に対応できる体制となりました。生産コストダウンの面では、従来のNACSS(生産合理化支援システム)を活用した取り組み等に加え、工務店や工事店との受発注・請求処理を電子化し、インターネットを活用することで、業務の効率化・迅速化・経費削減を実現するEDI(電子データ交換)システムを導入するなど、より一層の収益体質の強化を図

りました。

アフターメンテナンス面では、当社経営理念の行動指針の一つである「お客様最優先」実践の一環として、住宅引渡後 60 年間にわたり定期点検を実施し、お客様の家をサポートし続ける「ロングサポートシステム」を開始しました。従来から行っております 24 時間電話対応と併せ、家を引き渡した後もお客様に高い満足感と安心感を持っていただけるよう、よりきめ細かいサービスを行うことが可能な体制としました。

商品面では、主力商品である「GODAI One 's Story (ごだいワンスストーリー)」について改訂を行い、従来からの構造面での高い性能や、防犯複層ガラスの標準装備などの充実した性能・装備に加え、当社オリジナルの無垢材を床や建具に標準採用して木質感を一層高めました。特に床材には、世界各地に資材調達ネットワークを持つ住友林業の総合力を生かした、オーク材、チーク材の部材設定も可能とするなど、お客様の求める部材・設備の拡充及びグレードアップに努めました。また、戸建感覚のデザインにこだわりながら、二世帯、店舗併用型住宅等、将来の生活スタイルの変化に柔軟に対応できる生活提案型複合住宅「ライト・ライフ」や、自分らしいスタイル・こだわりを追求する若い世代向けに、シンプルかつ統一感のあるデザインを重視した新感覚住宅「リラクシア」など、様々な要望を持つお客様に幅広く対応できる商品ラインナップの充実を図りました。

また、新たな集客手法として、住宅部材やインテリア、実物大構造躯体などを一堂に展示し、お客様に「住友林業の家」を体感して頂くイベント「住まい博」を、昨年度に引き続き東京、大阪を始め各地で実施し、大きな反響を得ることができました。

以上の結果、受注は9,908棟(前期比0.1%増)、2,922億93百万円(前期比2.4%増)と昨年度を棟数、金額とも上回りました。完工につきましては、分譲を含め9,862棟(前期比0.2%減)、2,864億65百万円(前期比0.5%増)となりました。

#### ・その他の戸建住宅

新築戸建住宅事業の一翼を担うツーバイフォー工法による木造戸建住宅新築事業では、当期より社名を「住友林業ツーバイフォー(株)」と改め、新たにスタートしました。主要な対象顧客を中高級層に絞った販売戦略へと明確にシフトし、商品構成も無垢材など上質な自然素材を使用し、木の家の心地よさと先進の快適性を付加した、高級住宅を中心としました。しかしながら、当期は戦略の切り替えに対して展示場の変更等が間に合わず、受注は312棟(前期比25.4%減)、91億6百万円(前期比12.7%減)と前期を大幅に下回り、完工も394棟(前期比11.7%減)、102億96百万円(前期比5.6%減)と苦戦を強いられました。

一方、木造ユニット住宅の住宅新築事業を行う住友林業システム住宅(株)では、間取りや設備に女性の要望を反映させた商品など、商品のソフト面を充実させた他、オリジナルの断熱工法や床下蓄熱暖房を開発する等、技術開発にも力を注いだ結果、受注は309棟(前期比41.7%増)、73億57百万円(前期比33.0%増)、完工も285棟(前期比27.8%増)、69億70百万円(前期比25.8%増)と前期を大幅に上回りました。

米国シアトル近郊で前期から取り組んでいます北米住宅パイロット事業は、今後の本格的な事業展開

の可能性を探るべく当期より分譲住宅の販売を開始し、4棟の販売を完了しました。今後、年間80～90棟程度の分譲住宅を販売し、早期に収益事業へと育成していく方針です。

#### ・集合住宅事業

大都市圏でマンション・アパート等の住宅の建築を行う集合住宅事業では、3大都市圏で約2万戸の賃貸住宅の賃貸管理を行う(株)サン・ステップの発行済株式総数の63%を取得しました。これにより土地オーナーに対して、建築請負から賃貸管理までの一貫したサービスを提供することが可能となりました。また商品面でも、(株)サン・ステップのグループ会社が製造する高級磁器質タイルを外壁に標準装備した賃貸アパート「Succeed F-Style」を平成16年3月に発売し、商品開発面でも相乗効果を発揮することができました。このほか、高齢化社会のニーズに対応したデイサービス施設併設の賃貸住宅に力を入れるなど、ソフト面を重視した取り組みを行いました。これらの結果、受注は1,655戸（前期比34.9%増）、171億82百万円（前期比40.9%増）、完工も1,266戸（前期比3.8%増）、144億32百万円（前期比25.0%増）と前期を大幅に上回る結果となりました。

#### ・住宅関連事業

既存住宅を対象としたリフォーム事業及び不動産仲介事業は、次代の中核事業として育成すべく、重点事業の一つとして取り組んでおります。

リフォーム事業を行う住友林業ホームテック(株)では、大型増改築工事の受注高・完工高が大幅に伸び、業績を牽引しました。また、平成15年6月より新たなサービスとして、入居後最長10年間の保証及び最大4回までの無料アフターメンテナンス巡回サービスを開始しました。リフォーム業界においては他社に先駆けた取り組みであり、引き続き一層のサービス向上と業績の拡大を目指します。

不動産仲介事業を行う住友林業ホームサービス(株)は、平成15年12月には本社を大阪から東京に移転しました。関西に比較して手薄となっている首都圏エリアの人員増強及び更なる出店促進により、営業基盤の整備を図り、収益力の強化を図ります。

緑化・造園事業においては、戸建住宅事業との連携強化に注力するとともに、前期にスタートして好評を得ている定額制の庭木お手入れ事業「愛・グリーン」ビジネスの営業エリアを拡大し、更なる顧客獲得に努めました。また、企業が保有する緑地や森林資産の維持管理手法やコストの見直しなどを提案する新ビジネス、「エコアセット」コンサルティングサービスを、他社と共同で開始しました。

以上のような事業活動の結果、住宅及び住宅関連事業では、売上高は3,935億7百万円（前期比6.4%増）、営業利益は171億49百万円（前期比72.9%増）となりました。

#### <その他>

当社グループは、上記事業の他、農園芸用資材の製造販売事業、住宅顧客やグループ内を対象とする損害保険代理店業務、及びグループ内各社を対象とした情報システム開発、リースなどの各種サービス事業を行っています。

環境関連事業では、平成13年11月に本格的に開始しましたインドネシア・ワイカンバス国立公園における政府開発援助(ODA)植林事業において、予定通り360ヘクタール、39万本の植林を完了し、平成16年3月にインドネシア政府への引渡しを完了しました。また、インドネシアでの植林活動及びバイオマスエネルギー利用に関して、環境省の2003年度温暖化対策クリーン開発メカニズム(CDM)事業調査を5年連続で受託しました。

以上の結果、その他事業におきましては、売上高は32億38百万円(前期比64.6%減)、営業利益は6億44百万円(前期比54.9%増)となりました。

#### 環境への取り組み

環境への取り組みにつきましては、グループ全社で環境保全活動に対して統一的・効率的に行えるよう、ISO14001を利用した環境マネジメントシステムをグループ会社全社に順次広げています。当期は住友林業ツーバイフォー(株)と住友林業クレスト(株)の2社にISO14001の認証範囲を拡大し、その結果、当社グループの環境マネジメントシステムの範囲は、当社国内全事業所及びグループ会社5社に拡大しました。

インドネシアで合板やパーティクルボードなど木質建材を製造する、クタイ・ティンバー・インドネシア(KTI)社やリンバ・パーティクル・インドネシア(RPI)社では、地域社会と協力して、植林を積極的に行っています。原材料として使用する木材に占める植林木の比率を高めることで、自然環境に与える負荷を低減し、かつ原材料を安定的に調達できる体制の整備に努めています。KTI社では、植林木である早生樹のファルカタを使った建材商品の開発を進める一方、機械設備を植林木対応が可能なものに更新し、更に700ヘクタールに亘る植林地を確保するなど、植林木主体の体制への移行を順次進めています。またRPI社では、原材料である木材をチップ化して利用するため、ほぼ全量を原料として有効利用できることに加え、工程上排出される木質ダストについても燃料や木屑堆肥として利用することで、木質資源の100%利用を実践しています。

#### (2) 次期の見通し

今後の経済状況につきましては、緩やかな景気回復基調が続くものと見込まれますが、混迷を深めるイラク情勢、不安定な為替相場、世界的な原材料高など懸念材料も引き続き存在し、決して楽観は出来ません。住宅業界に目を向けましても、景況感は上向いてきましたものの、依然として厳しい雇用・所得環境のもと、今後新設住宅着工戸数の増加につながるかどうかは、なお不透明なままです。また、木材・建材業界については、業界全体が再編の動きを強めていることに加え、中国の旺盛な原材料需要による木材価格の上昇や海上輸送運賃の高騰など不安定要因も多く、予断を許さない状況が続くものと思われれます。

以上、景気回復への期待感から景況感は改善しつつありますが、当社グループを取り巻く事業環境は引き続き楽観できる状況にはありません。そのような中、当社はグループの全事業を「社会基盤事業」と位置付け、グループの経営理念である「『住生活』に関するあらゆるサービスを通じて、豊かな社会の実現に貢献する」ことを目指して、一層の経営基盤の強化と業績の向上に努めてまいります。

## 2. 財政状態

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,734	25,962
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,026	7,646
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,171	735
現金及び現金同等物に係る換算差額	433	297
現金及び現金同等物の増減額	13,156	17,282
現金及び現金同等物の期首残高	38,873	52,029
現金及び現金同等物の期末残高	52,029	69,312

当連結会計年度末の連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より172億82百万円増加して693億12百万円となりました。営業活動により259億62百万円の資金増となりましたが、投資活動で76億46百万円、財務活動で7億35百万円の資金をそれぞれ使用しました。

各キャッシュ・フローの状況はつぎのとおりであります。

### (1) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業利益が前期比88億3百万円増加して175億76百万円となったこと及び前連結会計年度に引続き住宅顧客向けつなぎ融資債権が減少したこと等の要因により、営業活動により獲得した資金は259億62百万円（前期比62億27百万円増）となりました。

### (2) 投資活動によるキャッシュ・フロー

前連結会計年度の20億26百万円の資金流入から一転し、76億46百万円の支出となりました。前連結会計年度の資金流入は、主に短期運用コマーシャルペーパーの償還によるものです。当連結会計年度におきましては、退職給付年金制度の安定化を目的とした信託拠出株式の現金入替及び㈱サン・ステップの株式取得等を実施しております。

### (3) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により使用した資金は、7億35百万円（前期比74億36百万円減）となりました。主な要因は、借入れによる資金調達、社債の償還及び配当金の支払い等によるものです。



尚、当企業集団のキャッシュ・フロー指標のトレンドは以下のとおりです。

	平成 12年 3月期	平成 13年 3月期	平成 14年 3月期	平成 15年 3月期	平成 16年 3月期
株主資本比率(%)	40.1	40.7	40.3	36.3	39.6
時価ベースの株主資本比率(%)	32.2	33.6	33.8	23.7	57.1
債務償還年数(年)	-	7.1	1.0	0.8	0.8
インタレスト・カバレッジ・レシオ	6.2	6.2	53.2	52.1	44.1

(注) 株主資本比率：株主資本 / 総資産

時価ベースの株主資本比率：株式時価総額 / 総資産

債務償還年数：有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー / 利払い

いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

株式時価総額は、期末株価終値 × 期末発行済株式数により算出しております。

営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

## 連結貸借対照表

( 資産の部 )

( 単位 : 百万円 )

科 目	前連結会計年度 ( 平成15年3月31日 )	当連結会計年度 ( 平成16年3月31日 )	増 減
<b>資 産 の 部</b>			
流動資産	( 245,049 )	( 252,328 )	( 7,278 )
1. 現金及び預金	29,685	30,169	483
2. 受取手形及び売掛金	79,956	76,964	2,991
3. 完成工事未収入金	5,072	4,749	323
4. 有価証券	22,445	39,356	16,910
5. 商品	15,527	16,841	1,313
6. 販売用不動産	7,155	5,994	1,160
7. 未成工事支出金	15,146	16,215	1,069
8. 繰延税金資産	7,376	8,322	946
9. 短期貸付金	17,359	12,614	4,745
10. 未収入金	43,219	39,511	3,707
11. その他	2,712	2,416	296
12. 貸倒引当金	608	828	219
固定資産	( 112,272 )	( 117,426 )	( 5,153 )
1. 有形固定資産	( 63,946 )	( 63,135 )	( 811 )
( 1 ) 建物及び構築物	15,466	14,790	676
( 2 ) 機械装置及び運搬具	17,600	17,373	226
( 3 ) 土地	17,575	16,965	610
( 4 ) 建設仮勘定	1,531	1,943	411
( 5 ) その他	11,772	12,062	289
2. 無形固定資産	( 7,341 )	( 7,416 )	( 74 )
( 1 ) 連結調整勘定	1,396	1,883	486
( 2 ) その他	5,945	5,533	412
3. 投資その他の資産	( 40,984 )	( 46,875 )	( 5,890 )
( 1 ) 投資有価証券	18,831	36,411	17,580
( 2 ) 長期貸付金	2,646	430	2,216
( 3 ) 繰延税金資産	11,796	1,229	10,566
( 4 ) その他	9,971	10,521	550
( 5 ) 貸倒引当金	2,260	1,718	542
<b>資 産 合 計</b>	357,322	369,754	12,432

## 連結貸借対照表

( 負債、少数株主持分及び資本の部 )

( 単位 : 百万円 )

科 目	前連結会計年度 ( 平成15年3月31日 )	当連結会計年度 ( 平成16年3月31日 )	増 減
<b>負 債 の 部</b>			
流動負債	( 184,789 )	( 185,951 )	( 1,161 )
1. 支払手形及び買掛金	48,277	50,441	2,164
2. 工事未払金	68,543	58,545	9,997
3. 短期借入金	7,251	9,568	2,316
4. 1年以内に償還予定の社債	1,700	60	1,640
5. 未払法人税等	5,365	7,055	1,690
6. 未成工事受入金	33,275	36,718	3,443
7. 賞与引当金	6,274	7,072	798
8. 完成工事補償引当金	654	808	154
9. その他	13,447	15,680	2,232
固定負債	( 42,750 )	( 37,149 )	( 5,601 )
1. 社債	-	280	280
2. 長期借入金	7,545	10,020	2,474
3. 繰延税金負債	1,024	2,040	1,016
4. 退職給付引当金	24,157	11,416	12,741
5. 役員退職慰労引当金	477	763	286
6. その他	9,544	12,627	3,082
<b>負 債 合 計</b>	227,539	223,100	4,439
<b>少 数 株 主 持 分</b>			
少数株主持分	( 55 )	( 385 )	( 330 )
<b>資 本 の 部</b>			
資本金	( 27,672 )	( 27,672 )	( - )
資本剰余金	( 25,650 )	( 25,650 )	( 0 )
利益剰余金	( 77,303 )	( 85,148 )	( 7,844 )
その他有価証券評価差額金	( 1,646 )	( 8,971 )	( 7,325 )
為替換算調整勘定	( 2,255 )	( 811 )	( 1,444 )
自己株式	( 289 )	( 362 )	( 73 )
<b>資 本 合 計</b>	( 129,727 )	( 146,268 )	( 16,541 )
負債、少数株主持分及び資本合計	357,322	369,754	12,432

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度		当連結会計年度		増減率
	自平成14年4月1日 至平成15年3月31日	百分比 %	自平成15年4月1日 至平成16年3月31日	百分比 %	
売上高	( 645,100 )	( 100.0 )	( 673,778 )	( 100.0 )	( 4.4 )
1. 売上高	295,115		314,562		
2. 完成工事高	349,984		359,216		
売上原価	( 535,468 )	( 83.0 )	( 553,001 )	( 82.1 )	( 3.3 )
1. 売上原価	273,299		292,558		
2. 完成工事原価	262,169		260,443		
売上総利益	109,631	( 17.0 )	120,777	( 17.9 )	( 10.2 )
販売費及び一般管理費	100,858	( 15.6 )	103,201	( 15.3 )	( 2.3 )
営業利益	8,772	1.4	17,576	2.6	100.4
営業外収益	( 2,392 )	( 0.3 )	( 2,392 )	( 0.3 )	( 0.0 )
1. 受取利息	152		135		
2. 仕入割引	634		637		
3. 受取配当金	199		236		
4. その他	1,407		1,383		
営業外費用	( 1,444 )	( 0.2 )	( 2,895 )	( 0.4 )	( 100.5 )
1. 支払利息	316		590		
2. 売上割引	217		259		
3. 販売用不動産等評価損	-		589		
4. その他	910		1,456		
経常利益	9,721	1.5	17,073	2.5	75.6
特別利益	( 7,157 )	( 1.1 )	13,920	( 2.1 )	( 94.5 )
1. 固定資産売却益	111		34		
2. 投資有価証券売却益	0		109		
3. 子会社清算益	-		56		
4. 厚生年金基金代行部分返上益	7,045		-		
5. 過去勤務債務償却額	-		9,440		
6. 数理計算差異一括処理額	-		4,279		
特別損失	( 38,776 )	( 6.0 )	( 5,931 )	( 0.9 )	( 84.7 )
1. 固定資産売却損	141		-		
2. 固定資産除却損	493		-		
3. 固定資産評価損	2,306		-		
4. 減損損失	-		5,531		
5. 投資有価証券売却損	14		-		
6. 投資有価証券評価損	2,580		13		
7. 販売用不動産等評価損	7,786		-		
8. 数理計算差異一括処理額	22,659		-		
9. 連結調整勘定一括償却額	1,427		-		
10. その他	1,365		385		
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失( )	21,897	3.4	25,062	3.7	-
法人税、住民税及び事業税	6,763	1.0	9,373	1.4	
法人税等調整額	13,225	2.0	5,787	0.8	
少数株主利益	3	0.0	31	0.0	
当期純利益又は当期純損失( )	15,439	2.4	9,869	1.5	-

## 連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 自平成14年4月 1日 至平成15年3月31日	当連結会計年度 自平成15年4月 1日 至平成16年3月31日
<b>資本剰余金の部</b>		
資本剰余金期首残高	( 25,650 )	( 25,650 )
資本剰余金増加高	( - )	( 0 )
自己株式処分差益	-	0
資本剰余金期末残高	( 25,650 )	( 25,650 )
<b>利益剰余金の部</b>		
利益剰余金期首残高	( 94,538 )	( 77,303 )
利益剰余金増加高	( - )	( 9,869 )
当期純利益	-	9,869
利益剰余金減少高	( 17,234 )	( 2,025 )
1. 配当金	1,765	2,025
2. 取締役賞与	30	-
3. 当期純損失	15,439	-
利益剰余金期末残高	( 77,303 )	( 85,148 )

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 自平成14年4月 1日 至平成15年3月31日	当連結会計年度 自平成15年4月 1日 至平成16年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	21,897	25,062
減価償却費	5,985	6,446
減損損失	-	5,531
連結調整勘定償却額	1,427	364
貸倒引当金の増減額	1,515	368
賞与引当金の増減額	657	755
完成工事補償引当金の増減額	78	143
退職給付引当金の増減額	16,687	12,796
役員退職慰労引当金の増減額	172	71
受取利息及び受取配当金	351	372
支払利息	316	590
持分法による投資損益	70	163
有価証券・投資有価証券評価損及び売却損益	2,595	95
固定資産評価損	2,306	-
固定資産売却損益及び除却損	650	25
子会社清算益	-	56
売上債権の増減額	13,147	9,666
たな卸資産の増減額	5,542	1,012
その他流動資産の増減額	4,480	4,219
仕入債務の増減額	9,726	8,064
前受金、工事前受金及び未成工事受入金の増減額	488	3,771
未払消費税等の増減額	112	415
その他流動負債の増減額	899	204
その他	68	305
小 計	20,514	33,984
利息及び配当金の受取額	350	370
利息の支払額	379	589
法人税等の支払額( )又は還付額	750	7,803
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,734	25,962
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	36
定期預金の払戻による収入	73	36
有価証券の取得による支出	-	2,899
有価証券の売却による収入	8,000	2,946
短期貸付金純増減額	16	1,163
有形固定資産の取得による支出	5,882	6,290
有形固定資産の売却による収入	4,070	3,626
無形固定資産の取得による支出	2,142	1,524
投資有価証券の取得による支出	1,387	8,082
投資有価証券の売却による収入	30	2,511
子会社清算による収入	-	272
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	1,893	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	221
長期貸付けによる支出	340	79
長期貸付金の回収による収入	932	2,278
その他の支出	781	1,875
その他の収入	1,362	2,412
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,026	7,646
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金純増減額	1,267	2,053
長期借入れによる収入	-	2,391
長期借入金の返済による支出	4,874	1,347
社債の償還による支出	-	1,730
配当金の支払額	1,769	2,029
その他の収入	-	5
その他の支出	259	78
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,171	735
現金及び現金同等物に係る換算差額	433	297
現金及び現金同等物の増減額	13,156	17,282
現金及び現金同等物の期首残高	38,873	52,029
現金及び現金同等物の期末残高	52,029	69,312

## 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

### 1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結の範囲に含まれている子会社は55社であります。

主要な連結子会社名は、「企業集団の状況」に記載しているため省略しております。

なお、当連結会計年度中に新規に設立したスミリンCADシステムズ(株)と当連結会計年度中に支配を獲得した(株)サン・ステップ、エー・エル建物企画(株)、(株)サンクレイ、(株)ステップ管理センター(大阪)及び(株)ステップ管理センター(名古屋)を当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

また、前連結会計年度に連結子会社でありましたスミリンツーバイフォー(株)、近畿スミリンベーステクノ(株)は、平成15年4月1日付でそれぞれ住友林業ツーバイフォー(株)、西日本スミリンベーステクノ(株)と名称変更しております。

一方、前連結会計年度に連結子会社でありました(株)不二は、平成16年1月1日付で同じく連結子会社である住友林業クレスト(株)を存続会社とする吸収合併により、連結の範囲から除外しております。

(2) 前連結会計年度に非連結子会社でありました Sumitomo Forestry Investment Ltd.は平成15年9月30日付で清算が終了しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社は3社(P.T.Rimba Partikel Indonesia、P.T.AST Indonesia 及び Bennett-SFS LLC)であります。

(2) 連結会計年度に持分法を適用していない非連結子会社でありました Sumitomo Forestry Investment Ltd.は、平成15年9月30日付で清算が終了しております。

(3) 持分法適用会社の決算日は連結決算日と異なっておりますが、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

在外連結子会社及び以下の国内連結子会社の決算日は12月31日であり、平成15年12月31日現在の財務諸表を使用しております。

- ・ (株)サン・ステップ
- ・ エー・エル建物企画(株)
- ・ (株)サンクレイ
- ・ (株)ステップ管理センター(大阪)
- ・ (株)ステップ管理センター(名古屋)

上記5社を除く国内連結子会社の決算日は3月31日であり、当連結会計年度の連結財務諸表作成に当り、平成16年3月31日現在の財務諸表を使用しております。

### 4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券

満期保有目的の債券 …… 償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの …… 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部資本直入)

法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの … 移動平均法による原価法

(ロ) たな卸資産

商品は移動平均法による原価法、販売用不動産及び未成工事支出金は個別法による原価法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産

主として定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

(ロ) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(ハ) 完成工事補償引当金

完成工事に係る補修費支出に備えるため、過去の実績に将来の見込みを加味した額を計上しております。

(ニ) 退職給付引当金

従業員及び執行役員の退職給付に備えるため設定しております。従業員部分については、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務及び数理計算上の差異は、発生年度に一括処理することとしております。

また、執行役員部分については、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(ホ) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 重要なリース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

(イ) ヘッジ会計の方法

外貨建取引の振当処理をヘッジ対象の貿易取引に適用しております。

(ロ) ヘッジ手段

為替変動リスクに対し、為替予約取引を利用しております。

(ハ) ヘッジ対象

管理規程に定められた方針に基づき、予定取引を含む貿易取引の一部をヘッジの対象としております。



(二) ヘッジ有効性評価の方法

相場変動によるヘッジ手段及びヘッジ対象に係る損益の累計を比較することでヘッジの有効性を評価しております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理については、税抜方式を採用しております。

5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項

連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。

6. 連結調整勘定の償却に関する事項

連結調整勘定の償却については、5年間の均等償却を行っております。金額が僅少なものについては、発生年度で償却しております。

7. 利益処分項目等の取扱いに関する事項

連結剰余金計算書は、連結会社の利益処分について、連結会計年度中に確定した利益処分に基づいて作成しております。

8. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

## **連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更**

(固定資産の減損に係る会計基準)

「固定資産の減損に係る会計基準」（「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会 平成14年8月9日））及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号）が平成16年3月31日に終了する連結会計年度に係る連結財務諸表から適用できることになったことに伴い、当連結会計年度から同会計基準及び同適用指針を適用しております。

この変更に伴い、従来の方法と比較して税金等調整前当期純利益が5,531百万円減少しております。

なお、減損損失累計額については、改正後の連結財務諸表規則に基づき当該各資産の金額から直接控除しております。

## 注記事項

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成15年3月31日)		当連結会計年度 (平成16年3月31日)	
1. 有形固定資産の減価償却累計額	38,458 百万円	1. 有形固定資産の減価償却累計額	45,542 百万円
2. 手形割引高及び裏書譲渡高		2. 手形割引高及び裏書譲渡高	
受取手形割引高	44 百万円	受取手形割引高	- 百万円
受取手形裏書譲渡高	34	受取手形裏書譲渡高	46
3. 保証債務	6,640 百万円	3. 保証債務	7,227 百万円

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)		当連結会計年度 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	
現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係(平成15年3月31日現在)		現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係(平成16年3月31日現在)	
現金及び預金期末残高	29,685 百万円	現金及び預金期末残高	30,169 百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	55	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	55
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する商業紙幣	22,399	取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する商業紙幣	39,198
現金及び現金同等物期末残高	52,029	現金及び現金同等物期末残高	69,312

(リース取引関係)

E D I N E Tにより開示を行うため記載を省略しております。

# セグメント情報

## 1. 事業の種類別セグメント情報

前連結会計年度（自平成14年4月1日 至平成15年3月31日）

（単位：百万円）

	木材・建材事業	住宅及び住宅関連事業	その他	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	266,078	369,885	9,136	645,100	-	645,100
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	17,439	536	8,745	26,721	( 26,721)	-
計	283,517	370,421	17,882	671,821	( 26,721)	645,100
営業費用	281,279	360,500	17,466	659,246	( 22,919)	636,327
営業利益	2,238	9,920	415	12,575	( 3,802)	8,772
資産、減価償却費及び資本的支出						
資産	145,423	133,010	31,934	310,368	46,953	357,322
減価償却費	2,936	2,217	839	5,993	( 8)	5,985
資本的支出	2,627	1,417	581	4,626	496	5,123

当連結会計年度（自平成15年4月1日 至平成16年3月31日）

（単位：百万円）

	木材・建材事業	住宅及び住宅関連事業	その他	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	277,033	393,507	3,238	673,778	-	673,778
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	16,186	109	9,112	25,407	( 25,407)	-
計	293,220	393,616	12,350	699,186	( 25,407)	673,778
営業費用	289,407	376,466	11,706	677,580	( 21,377)	656,202
営業利益	3,812	17,149	644	21,606	( 4,030)	17,576
資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	146,169	108,159	7,893	262,222	107,531	369,754
減価償却費	2,959	2,224	627	5,811	635	6,446
減損損失	-	2,414	3,117	5,531	-	5,531
資本的支出	1,723	3,161	999	5,884	507	6,391

(注) 1. 事業区分は、事業の種類・性質の類似性等の観点から 3 区分しております。

### 2. 各事業の主な内容

- (1) 木材・建材事業……木材・建材の仕入・製造・販売業等
- (2) 住宅及び住宅関連事業……注文住宅・集合住宅等の建築請負業、住宅外構工事の請負業、造園・緑化工事の請負業  
不動産の売買・賃貸・仲介業等
- (3) その他……リース業、ゴルフ場経営等

3. 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、前連結会計年度 3,074百万円、当連結会計年度 3,484百万円であり、親会社本社の管理部門にかかる費用であります。

4. 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は、前連結会計年度 71,483百万円、当連結会計年度110,426百万円であり、その主なものは親会社本社の余資運用資金（現預金及び有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

5. 減価償却費及び資本的支出には、長期前払費用と同費用に係る償却額が含まれております。

### 6. 会計処理基準の変更

（前連結会計年度）

退職給付会計制度における未認識数理計算上の差異処理方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、従来、退職給付会計制度における未認識数理計算上の差異については、発生年度の翌年から 5 年で処理する方法をとっておりましたが、当連結会計年度より発生年度に一括して処理する方法に変更しました。

この変更に伴い数理計算上の差異22,659百万円を数理計算差異一括処理額として特別損失に計上した結果、従来の方法と比較して、営業費用は「木材・建材事業」で229百万円、「住宅及び住宅関連事業」で1,828百万円、「その他」で9百万円減少し、営業利益はそれぞれ同額増加しております。

なお、「消去又は全社」に含まれる配賦不能営業費用は119百万円減少し、営業利益は同額増加しております。

(当連結会計年度)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、「固定資産の減損に係る会計基準」(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会 平成14年8月9日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号)が平成16年3月31日に終了する連結会計年度に係る連結財務諸表から適用できることになったことに伴い、当連結会計年度から同会計基準及び同適用指針を適用しております。この変更に伴い、前連結会計年度と同一の方法によった場合に比べ、資産は「住宅及び住宅関連事業」において2,414百万円減少し、「その他」で3,117百万円減少しております。

#### 7. 事業の種類別セグメント区分の変更

当連結会計年度より事業の種類別セグメント区分を変更して、従来「その他」に含めていた不動産の仲介業を「住宅及び住宅関連事業」に含めております。

この変更は住宅事業にとって補完的に機能する不動産事業の戦略的重要性が増大してきていることから、当社グループの事業の種類別セグメントの状況をより適切に表すために行ったものです。

この変更により、従来と同一の方法によった場合と比較して当連結会計年度の売上高は「住宅及び住宅関連事業」で6,060百万円増加して「その他」で5,858百万円減少し、営業費用は「住宅及び住宅関連事業」で5,693百万円増加して「その他」で5,584百万円減少しております。営業利益は「住宅及び住宅関連事業」で367百万円増加し、「その他」で274百万円減少しております。

なお、前連結会計年度において当連結会計年度の事業区分によった場合の事業の種類別セグメント情報は次のとおりであります。

前連結会計年度(自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)

(単位:百万円)

	木材・建材 事業	住宅及び 住宅関連 事業	そ の 他	計	消 去 又 は 全 社	連 結
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	266,078	375,365	3,656	645,100	-	645,100
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	17,439	552	8,918	26,910	( 26,910)	-
計	283,517	375,918	12,574	672,011	( 26,910)	645,100
営業費用	281,279	365,872	12,164	659,316	( 22,989)	636,327
営業利益	2,238	10,045	410	12,694	( 3,921)	8,772
資産、減価償却費及び資本的支出						
資産	145,423	135,632	12,532	293,588	63,733	357,322
減価償却費	2,936	2,298	761	5,996	( 11)	5,985
資本的支出	2,627	1,479	519	4,626	496	5,123

## 2. 所在地別セグメント情報

前連結会計年度（自平成14年4月1日 至平成15年3月31日）

本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメントの売上高の合計及び全セグメント資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自平成15年4月1日 至平成16年3月31日）

（単位：百万円）

	日 本	そ の 他 の 地 域	計	消去又は全社	連 結
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	659,702	14,076	673,778	-	673,778
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,689	16,455	18,144	( 18,144)	-
計	661,392	30,531	691,923	( 18,144)	673,778
営業費用	639,899	30,514	670,413	( 14,211)	656,202
営業利益	21,492	17	21,509	( 3,933)	17,576
資産	231,050	29,523	260,573	109,180	369,754

（注）1. 国又は地域の区分は地理的近接度によっております。

2. 本国以外の区分に属する主な国又は地域

その他の地域・・・アジア、北米、オセアニア

3. 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は3,484百万円であり、親会社本社の管理部門にかかる費用であります。

4. 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は、当連結会計年度110,426百万円であり、その主なものは親会社本社の余資運用資金（現預金及び有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

5. 減価償却費及び資本的支出には、長期前払費用と同費用に係る償却額が含まれております。

## 3. 海外売上高

前連結会計年度及び当連結会計年度における海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

## 生産、受注及び販売の状況

### (1) 受注高及び施工高の状況

当連結会計年度における住宅及び住宅関連事業の受注高及び施工高の状況を示すと、次のとおりであります。

当連結会計年度（自平成15年4月1日 至平成16年3月31日）

（単位：百万円）

事業の種類別 セグメントの名称	区分	前 期 繰越高	当 期 受注高	計	当 期 完工高	次期繰越高		当 期 施工高	
						手持高	うち施工高		
住宅及び住宅関連事業	注文住宅	9,370 棟 268,261	10,529 棟 308,758	19,899 棟 577,019	10,496 棟 302,779	9,403 棟 274,239	18,906	6.9%	305,521
	集合住宅等	7,033	17,182	24,216	14,432	9,784	632	6.5%	13,773
	計	275,294	325,940	601,235	317,211	284,023	19,538	6.9%	319,295

(注) 1. 「注文住宅」の受注高には、当連結会計年度の新規受注に加えて、期中の追加工事によるものが含まれております。

2. 「集合住宅等」とは、注文住宅と区分して、集合住宅・ビルその他特殊建築物を総称したものであります。棟数表示については一棟ごとに容積、構造、金額が一樣でないため、省略しております。

3. 「次期繰越高」の施工高は、工事進行程度により手持工事の施工高を推定したものであります。

4. 「当期施工高」は、（当期完工高＋次期繰越施工高－前期繰越施工高）に一致します。

5. 前年同期比は、「当期受注高」が103.9%、「次期繰越高」が103.2%、「当期施工高」が101.8%であります。

6. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

7. 上記の金額には、分譲住宅及び住宅関連事業にかかる受注高及び施工高は含まれておりません。

### (2) 販売実績

当連結会計年度における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
木材・建材事業	277,033	104.1
住宅及び住宅関連事業	393,507	106.4
その他	3,238	35.4
合計	673,778	104.4

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 当連結会計年度より事業の種類別セグメント区分を変更して、従来「その他」に含めていた不動産の仲介業を「住宅及び住宅関連事業」に含めております。この変更により、従来と同一の方法によった場合と比較して当連結会計年度の販売実績は「住宅及び住宅関連事業」で6,048百万円増加し、「その他」で同額減少しております。

## 有価証券関係

前連結会計年度(平成15年3月31日)

1. 売買目的有価証券(平成15年3月31日)  
該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの(平成15年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(時価が連結貸借対照表計上額を 超えるもの)			
(1)国債・地方債等	-	-	-
(2)社債	-	-	-
(3)その他	-	-	-
小計	-	-	-
(時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの)			
(1)国債・地方債等	406	406	-
(2)社債	-	-	-
(3)その他	-	-	-
小計	406	406	-
合計	406	406	-

3. その他有価証券で時価のあるもの(平成15年3月31日)

(単位:百万円)

	取得原価	連結貸借対照表計上額	差額
(連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの)			
(1)株式	8,561	12,561	3,999
(2)債券	-	-	-
(3)その他	-	-	-
小計	8,561	12,561	3,999
(連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの)			
(1)株式	5,727	4,482	1,244
(2)債券	-	-	-
(3)その他	-	-	-
小計	5,727	4,482	1,244
合計	14,288	17,044	2,755

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)  
(単位:百万円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
12	0	12

5. 時価のない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額(平成15年3月31日)

- (1) 満期保有目的の債券  
    コマ・シャルペ・パ - 22,399 百万円
- (2) その他有価証券  
    非上場株式(店頭売買株式を除く) 713 百万円

6. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額（平成15年3月31日）  
（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1)債券				
国債・地方債等	46	359	-	-
社債	-	-	-	-
その他	22,399	-	-	-
(2)その他	-	-	-	-
合    計	22,445	359	-	-

当連結会計年度（平成16年3月31日）

1. 売買目的有価証券（平成16年3月31日）

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの（平成16年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
（時価が連結貸借対照表計上額を 超えるもの）			
(1)国債・地方債等	-	-	-
(2)社債	-	-	-
(3)その他	-	-	-
小    計	-	-	-
（時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの）			
(1)国債・地方債等	404	404	-
(2)社債	-	-	-
(3)その他	-	-	-
小    計	404	404	-
合    計	404	404	-

3. その他有価証券で時価のあるもの（平成16年3月31日）

（単位：百万円）

	取得原価	連結貸借対照表計上額	差額
（連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの）			
(1)株式	17,789	32,899	15,110
(2)債券	-	-	-
(3)その他	-	-	-
小    計	17,789	32,899	15,110
（連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの）			
(1)株式	1,824	1,702	121
(2)債券	-	-	-
(3)その他	-	-	-
小    計	1,824	1,702	121
合    計	19,613	34,602	14,988

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日）

（単位：百万円）

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
2,489	109	0



5. 時価のない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額（平成16年3月31日）

(1) 満期保有目的の債券	
コマ - シャルペ - パ -	39,198 百万円
(2) その他有価証券	
非上場株式（店頭売買株式を除く）	1,077 百万円

6. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額（平成16年3月31日）  
（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1)債券				
国債・地方債等	157	246	-	-
社債	-	-	-	-
その他	39,198	-	-	-
(2)その他	-	-	-	-
合 計	39,356	246	-	-

## デリバティブ取引関係

E D I N E Tにより開示を行うため記載を省略しております。

## 退職給付関係

前連結会計年度（自 平成14年4月1日 至 平成15年3月31日）

### 1. 採用している退職給付制度の概要

当社、国内連結子会社及び一部の海外連結子会社は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

なお、当社においては退職給付信託を設定しています。

当社については昭和55年9月より、昭和62年10月1日に合併しました被合併会社の住友林業ホーム(株)（現住宅本部）は昭和61年4月より、それぞれ定年退職給与について適格退職年金制度を採用していましたが、平成2年4月1日、厚生年金基金を設立し、移行しました。本制度の年金より支給される金額は定年退職金の基準額の100%であり、定年退職金以外につきましては基準額の概ね50%相当分であります。

また、平成15年3月31日現在、当社のほかに連結子会社13社が同基金に加入しております。

当社及び一部の国内連結子会社は、厚生年金基金の代行部分について、平成14年10月18日に厚生労働大臣から将来分支給義務免除の認可を受けました。

### 2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成15年3月31日) (百万円)
イ．退職給付債務	40,541
ロ．年金資産	16,384
ハ．未積立退職給付債務（イ＋ロ）	24,157
ニ．会計基準変更時差異の未処理額	-
ホ．未認識数理計算上の差異	-
ヘ．未認識過去勤務債務（債務の減額）	-
ト．連結貸借対照表計上額純額（ハ＋ニ＋ホ＋ヘ）	24,157
チ．前払年金費用	-
リ．退職給付引当金（ト－チ）	24,157

（注）1.一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

2.厚生年金基金の代行部分返上に関し、「退職給付会計に関する実務指針（中間報告）」（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第13号）第47-2項に定める経過措置を適用し、厚生労働大臣から将来分支給義務免除の認可を受けた日において代行部分に係る退職給付債務と返還相当額の年金資産を消滅したものとみなして会計処理しております。なお、平成15年3月31日現在において測定された年金資産の返還相当額は、9,347百万円であります。

### 3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成14年4月1日 至平成15年3月31日) (百万円)
イ．勤務費用（注）1,2	3,210
ロ．利息費用	1,434
ハ．期待運用収益	805
ニ．数理計算上の差異の費用処理額（注）3	22,659
ホ．過去勤務債務の費用処理額	-
ヘ．退職給付費用（イ＋ロ＋ハ＋ニ＋ホ）	26,499
ト．厚生年金基金代行部分返上益（特別利益）	7,045
計	19,453

（注）1.厚生年金基金に対する従業員拠出額を控除しております。

2.簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「イ．勤務費用」に計上しております。

3.「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、従来、退職給付会計制度における未認識数理計算上の差異については、発生年度の翌期から5年で処理する方法をとっていましたが、当連結会計年度より発生年度に一括して処理する方法に変更しました。

この変更に伴い数理計算上の差異22,659百万円を数理計算差異一括処理額として特別損失に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)
イ. 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
ロ. 割引率	期首 3.5% 期末 2.5%
ハ. 期待運用収益率	期首 3.5% 期末 0.8%
ニ. 過去勤務債務の処理年数	-
ホ. 数理計算上の差異の処理年数	発生年度に一括処理 することとしており ます。

(注) 主として当社を含めた原則法適用会社14社の記述であります。

当連結会計年度(自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社、国内連結子会社及び一部の海外連結子会社は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

なお、当社においては退職給付信託を設定しています。

当社については昭和55年9月より、昭和62年10月1日に合併しました被合併会社の住友林業ホーム(株)(現住宅本部)は昭和61年4月より、それぞれ定年退職給与について適格退職年金制度を採用していましたが、平成2年4月1日、厚生年金基金を設立し、移行しました。本制度の年金より支給される金額は定年退職金の基準額の100%であり、定年退職金以外につきましては基準額の概ね50%相当分であります。

また、平成16年3月31日現在、当社のほかに連結子会社13社が同基金に加入しております。

なお、当社及び一部の国内連結子会社は、厚生年金基金について、平成16年4月1日に厚生労働大臣から代行部分にかかる過去分返上の認可を受け、同日付で確定給付企業年金(基金型)に移行しております。また、同時に退職給付制度を改定し、キャッシュバランスプラン(市場金利連動型年金)を導入しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	当連結会計年度 (平成16年3月31日) (百万円)
イ. 退職給付債務	33,394
ロ. 年金資産	21,977
ハ. 未積立退職給付債務(イ+ロ)	11,416
ニ. 未認識数理計算上の差異	-
ホ. 未認識過去勤務債務(債務の減額)	-
ヘ. 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ)	11,416
ト. 前払年金費用	-
チ. 退職給付引当金(ヘ-ト)	11,416

(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	当連結会計年度 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日) (百万円)
イ. 勤務費用(注)	3,288
ロ. 利息費用	1,051
ハ. 期待運用収益	127
ニ. 数理計算上の差異の費用処理額(特別利益)	4,279
ホ. 過去勤務債務の費用処理額(特別利益)	9,440
ヘ. 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ)	9,508

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「イ. 勤務費用」に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	当連結会計年度 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)
イ. 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
ロ. 割引率	期首 2.5% 期末 2.1%
ハ. 期待運用収益率	期首 0.8% 期末 0.7%
ニ. 過去勤務債務の処理年数	発生年度に一括処理 することとしており ます。
ホ. 数理計算上の差異の処理年数	発生年度に一括処理 することとしており ます。

(注) 主として当社を含めた原則法適用会社14社の記述であります。